

July 2017

vol. 263

■今月のトピックス

台湾政府が推進する「バイオメディカル産業イノベーション推進プロジェクト」

■日本企業から見た台湾

～台湾日立亞太股份有限公司總經理 梁氏インタビュー～

台湾のインフラ事業での貢献を目指す台湾日立亞太

■台湾進出ガイド

オフィスの売買・賃貸相場

■台湾マクロ経済指標

■インフォメーション

【今月のトピックス】

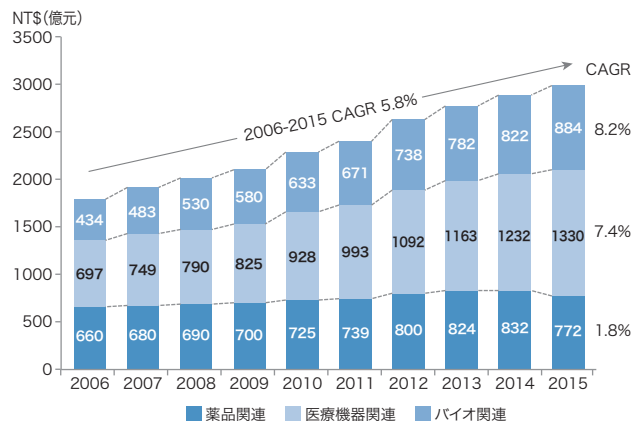
台湾政府が推進する「バイオメディカル産業イノベーション推進プロジェクト」

台湾の医療・介護水準は世界トップ水準を誇っている。しかし、バイオメディカル産業については、国内マーケットのサイズに限界がある上、商品化力の欠如や経験豊富なグローバル人材の欠如等諸要因により、世界を代表するリーディングカンパニーが輩出されていない。行政院は当産業における近隣諸国の高い競争力や、高齢化社会が進むにつれ深刻さを増す医療費負担の問題等を考慮し、2016年より「バイオメディカル産業イノベーション推進プロジェクト」を進めている。当プロジェクトでは、「産業生態系の整備」、「イノベーションクラスターの運営」、「世界市場とのリンク」、「特色ある産業の推進」を基軸としながら、バイオメディカル産業の発展を促進させると共に、台湾経済の振興及び国民の健康増進を図っていく予定である。

バイオメディカル産業イノベーション推進プロジェクトの発展背景

經濟部工業局のバイオテクノロジー産業白書によると、当産業の市場規模は2015年時点で2,986億元に達している。過去10年間の年平均成長率は約5.8%であり、主に応用バイオテクノロジー及び医療機器が急成長している。一方、製薬産業は2015年はやや減少した。

図1：台湾バイオテクノロジー医薬産業市場規模の推移



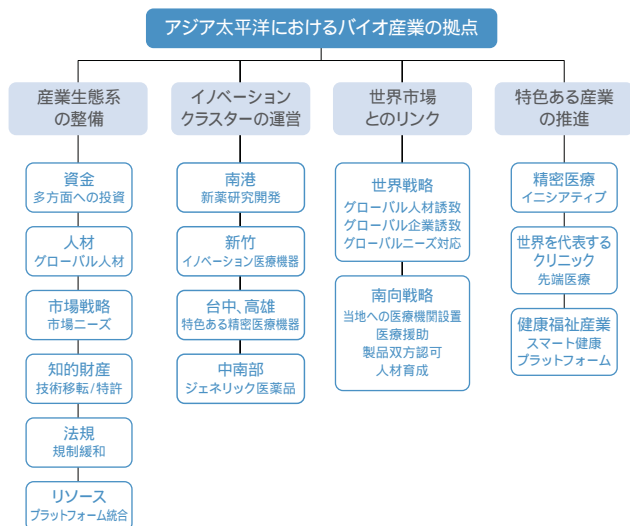
出所：經濟部工業局

過去10年間で急成長を遂げた応用バイオテクノロジー産業を支える主な製品は、臍帯血保存や低侵襲医療に関連する医療品であり、最先端技術をあまり必要としない製品である。こうした製品は世界的にも安定した市場規模を維持しているものの、医療先進国である隣国のシンガポールや日本、韓国等と比較すると、今後バイオメディカル産業を振興させていくための誘因としては物足りない。また、台湾は健康保険データベース(健保資料庫)や30種類にもなるバイオ関連のデータベースが豊富に存在する。しかし、各リソースの統合が不十分であり、商品化力に結びついておらず、世界を代表するリーディングカンパニーが育っていない。

バイオメディカル産業イノベーション推進プロジェクトのビジョン

上述したバイオ医薬産業の発展を遅らせている諸要因の他、世界的に進む人口高齢化や高まる医療介護ニーズ等の状況から、政府は、台湾をバイオテクノロジー医薬産業の重要拠点とするため、①産業生態系の整備、②イノベーションクラスターの運営、③世界市場とのリンク、④特色ある産業の推進の4つを基軸にバイオメディカル産業の発展に注力している。台湾のバイオ医薬産業の世界的競争力の強化を図ると共に、国民の健康増進を図っていく予定である。

図2: バイオメディカル産業イノベーション推進プロジェクトの枠組み



出所: 行政院

バイオ医薬産業革新推進プロジェクトにおけるアクションプラン

一、産業生態系の整備

台湾のバイオ医薬産業を世界水準に引き上げるべく、画期的な刷新を目指し、資金・人材・市場戦略・知的財産・法規・リソースの6大テーマについて整備する。例えば資金面では、投資審議にかかる時間を短縮し、世界のトップ100にランクインしているバイオ医薬企業を誘致していく。また、優良な世界企業との連携を奨励し、政府もバイオ医薬産業への投資を拡大させる。この他、人材面では、外国人就業者を招聘し易い環境を整備し、海外企業との連携によりハイエンド人材を呼び込んでいく。

二、イノベーションクラスターの運営

台湾のバイオテクノロジー医薬産業に関連するクラスターは、主に台北及び新竹に集積している。両エリアに位置するバイオテクノロジーパークには、研究開発リソースが整備され、数多くのバイオテクノロジー関連企業が入居している。加えて、ICT産業や医療用映像機器等を手掛ける電子機器メーカー等も入居しているというメリットもある。このため、将来的には、南港バイオテクノロジーパークを新薬の研究開発の拠点とし、新竹バイオメディカルサイエンスパークはICTのソフト・ハードの開発力と連携しながら、医療機器の開発拠点としていく予定である。一方、中南部においては、特色ある医療機器や高付加価値な薬品の生産力を増強させ、医療機関或いは展示センター等の各施設に台湾製の医療機器を導入、特色ある台湾のサービスを体感できる環境を整備していく。また、こうした施設に海外からの学生を誘致したり、学習の場として提供したりすることで、台湾の医療機器を世界にアピールし、輸出版売への契機を作っていく予定である。この他、関連法規の改正により中小製薬メーカー

の合併を促し、技術支援メカニズムの整備や輸出版売のサポートを通じ、台湾の伝統的な製薬メーカーのグローバル市場での活躍を促進していく。

三、世界市場とのリンク

各医学センターにおける臨床実績の累積を活かし、世界のハイエンド人材の招聘及び技術の導入や資金の投入により、引き続き世界的なバイオ企業の台湾への誘致を行っていく。この他、世界の優良バイオ企業の買収を奨励し、台湾のバイオ医薬産業の競争力を高め、国際市場を開拓していく。また、新南向政策の推進に伴い、新南向市場のニーズにもフォーカスし、台湾及び相手国における製品認証メカニズムを整備しながら、台湾の医療サービスや医療機器、医薬品の市場を拡大させると共に、新南向国家における医療従事者の育成や公共衛生等における支援を行っていく。

四、特色ある産業の推進

台湾が優位性を有している、血液癌や肺癌、肝臓癌、胃癌、乳癌、頭頸部癌等の臨床試験の蓄積を基盤に、医療健康分野のビッグデータ運用に関する法規改正を進める。また、医療機器や医薬品、ヘルスケア事業者が精密医療(オーダーメイド治療)に早期に参画でき、且つ世界の研究開発と連携しながらバリューチェーンを整備し、当事業を発展させていけることができるような環境を整備する。同時に、こうした精密医療の発展を通じ、台湾の特色ある医療のイメージを向上させていく。なお、台湾大学病院医学院附設医院新竹分院を当コンセプトの模範機関とする予定で、優秀な医療チームを設置し、国内外の患者に多面的な最先端の医療サービスを提供する予定である。精密医療の発展を通じ、医療健康分野のビッグデータ環境を整備し、更にはスマートライフのプラットフォームを推進し、多面的なサービスモデルにより国民の健康増進を図っていく予定である。

バイオメディカル産業イノベーション推進プロジェクトの将来展望及び日本企業との連携チャンス

バイオメディカル産業イノベーション推進プロジェクトは、特に台湾と世界との連結を強調しており、産業生態系の整備を通して、先端技術を有する国々との連携や関連人材の招聘、投資誘致に注力している。日本のバイオメディカル産業は世界トップレベルであり、近年は再生医療関連事業も発展しており、台湾にとってこうした日本の関連企業と多面的に連携していくことも当プロジェクトの目標の一つである。また、この先、関連する法規面の改正が進むと、癌治療に係る台湾の先端バイオメディカル産業が更に注目されていくと考えられる。バイオメディカル産業イノベーションプロジェクトを通じた資金面での支援等により、日本企業の誘致や台湾企業との共同開発も活発化すると予想され、日台共同による新南向市場或いはグローバル市場の開拓は更に進んでいくであろう。

(簡書敏:s-chien@nri.co.jp)